

# 岩手県における幼児教育の発展について

森 純 吾

岩手県の幼児教育の発展については、他の地方と同じように、社会事業としての託児所、保育所のコースと教育事業としての幼稚園コースとの二つの系統がある。岩手県の幼児教育の発展を明にするためには、この二つのコースと教師養成問題、行政機関、研究団体等を綜合して見てゆかねばならない。然しここでは、紙数の関係上主として幼稚園関係のものに止めたい。

東北地方、殊に岩手県は、幼児教育の発展の条件にめぐまれていなかった。その広大な面積に比して耕地面積少なく、人口密度も低

如きは殊に著しく不振の状況であった。これも止むを得ない所である。年代を追ってその発展のあと見てみよう。

## 一 明治以前

明治以前の幼児教育に就いては、これを詳にする資料を得ていないが、各家庭の教育は別として、主として寺小屋、私塾等に於て若干行われていたと見るべきであろう。岩手県営事業報に明にされているこれ等の数は一五三である。二戸、胆沢、江刺等の記録がのっていないので実際はもっと多くのものがあっ

く、その多くは山野である。又冬期積雪期間長く、相次ぐ冷害或は津浪等におそわれ、大都市を隔ること遠く、交通不便で、生産の輸送と必需品の購入にも困難多く、従って経済条件にめぐまれていない。これ等が原因して民度低く、所謂文化施設の各般にわたって立ちおくれ、幼児教育の

たことが推測される。旧藩時代には岩手県は、仙台藩、南部藩に分れていたのであるが、両藩ともに、寺小屋の経営を士庶の自由にまかせていた。そのため最初は土地の状況により、士分の隠居、僧侶、神官、又庶民の中でも、その人となりにより頼まれて師匠となつたものもあり、中には自身教育に熱心の者で幼童を集めて寺小屋を開いたものもあつた。これ等の入学年令を見ると、七才が最も多くなつている。これは今日の満五才児即ち幼稚園一年保育のものに当るので、その頃既にその年令のものが教育を受けていたことになる。然しこれ等の教育内容や方法は、今日の幼稚園教育から見れば、ほど遠いものであつたことは云うまでもない。

## 二 明治時代

我が国の幼稚園教育は、明治五年の学制に始るが、その発展は小学校教育に比して甚だふるわなかつた。岩手県は殊に前述の事情からしてその開設も遅れている。

今日の幼稚園教育の発祥と見るべきものは、明治三十七年六月十一日、当時岩手県立盛岡高等女学校教諭であつた長岡エイ女史の提唱によつて、基督教婦人矯風会の人々の賛

同を得て、同高女校舎の一部を借用して始められたものであろう。長岡女史自らその主任となり、一名の助手と同高等女学校補習生有志の援助を受け、毎週月、水、土、午後放課後開設されていたものである。然し諸種の事情で永続せず閉鎖された。

明治四十年、ジ・エフ・タッピング氏が、バプテスト教会宣教師として、盛岡市に赴任するに際し、同氏夫人が米国に於て保育学を専攻し、又幼稚園の経営並に保姆養成に關し、多年の経験を有することを幸に、前記長岡女史及び市内の有志の人々は、幼稚園の再興を念願し、同教会に幼稚園の開設を願ったのである。幸に同教会はその勤言を入れ、市内内丸四三の自宅を開放して幼稚園とし、有資格者の保姆の人選、設備等をとのえ、同年開設を見るに至った。同四十二年には正式に県の認可を受けている。従って正規の幼稚園の岩手県に於ける開設は明治四十二年に始ることになる。これは今日新装なった盛岡幼稚園の前身である。

ついで日本聖公会の経営にかかる仁王幼稚園が、明治四十五年四月一日に、盛岡市仁王小路四四に聖馬可幼稚園として誕生し、大正十四年三月二十六日仁王幼稚園と改称して県よ

り正式に認可をうけ今日に至っている。以上二者は何れも基督教教会によって始められたものである。

### 三 大正時代

前記の如く岩手県の幼稚園は、先ず基督教会の手によって創められたのであるが、大正元年一月二十日に、これとは別に水沢市に水沢幼稚園が開設されている。これは、実業家石川福松氏と私立東京実用女芸学校附属幼稚園の設立者であった味岡貢氏とのコンビで開設されたもので、個人経営のものとして本県最初のものである。県よりの認可は大正六年五月二十五日に受けている。大正十二年に園長である味岡氏死亡により、その後は大林寺住職阿部善覚氏並に同夫人に継承され、漸次發展して今日に及んでいる。

尚宗教と関係なきものとして、大正十四年九月四日に、岩谷堂婦人会長及川サツキ女史の名を以て設置認可された私立岩谷堂幼稚園がある。これは正常な發展をとげて昭和四年二月町立岩谷堂幼稚園として岩谷堂町に移管された。これは公立幼稚園の最初のものであろう。然しおしいことに途中で又私立に代り、昭和二十八年四月一日、あらためて公立

として認可をうけ再出発している。

仏教関係者によって設置された最初のものとして、盛岡市内丸に元作人館中学校舎の一部をかりて開設された睦幼稚園がある。これはかねて幼稚園設立の宿望をもっていた同氏穀町岡田源太氏が出資して、願教寺住職島地大等、真宗僧侶亀山親夫、当時家政女学校長佐藤熊太郎、元代議士鈴木巖、四戸熊蔵氏等相はかって出来たもので、大正六年九月七日設立認可を得、同月十八日第一回入園式を挙行している。其の後処々に居を移したが、現在十三日町に新園舎を作つて移転、願教寺住職を園長として發展している。

尚仏教関係では、大正九年三月五日設立認可された一関市の一関幼稚園がある。これは西磐井郡真滝村曹洞宗瑞川寺住職三浦無学氏と一関の曹洞宗願成住職広嶋文雄両氏の共同組織によって設置せられたものである。

この間に基督教会関係のものとして、日詰町に日詰幼稚園が大正八年四月、日詰日本基督教会の尽力によって開設されている。又大正十年四月八日には、米国宣教師アンネ・エスプセル女史が、三宅ハル、佐々木兵衛氏等の協力によって遠野バプテスト教会堂を借りて遠野聖光幼稚園を創めている。

大正十五年には、鉄の都、釜石市にバプテスト教会牧師川村賢吉氏によって、夏期幼稚園として幼児教育が初めて試みられたが、一般の人々の要望切なるものがあつたため、閉鎖するに忍びず、遂に永続的のものとして、同年十月一日認可を受けている。これは交通不便な海岸地方に出来た最初の幼稚園である。

#### 四 昭和時代（前期）

昭和時代前期は所謂大戦前の時代である。この時代の始め即ち大正十五年四月二十二日に幼稚園令の発布を見、発展の気運に向つて行つたに關らず、時あたかも戦争体制に突入したために、思うような発展をとげなかつた時代である。

この時期には仏教関係としては、二戸郡福岡町に、昭和二年三月福岡幼稚園、花巻町に同年四月花巻幼稚園（これは今日の花巻市立花巻幼稚園の前身をなすものである。）釜石市に同年十二月明峯第一幼稚園、昭和六年九月明峯第二幼稚園が出来ている。

基督教関係としては、宮古市に昭和四年十二月、宮古幼稚園、盛岡市に昭和六年四月、泉幼稚園、同じく同市に昭和八年四月頌美幼

稚等が開設されている。

宗教関係なきものとしては、昭和五年六月に黒沢尻町（今の北上市）に黒沢尻幼稚園、昭和六年六月に高田町に高田幼稚園、昭和八年九月に、前沢町に前沢幼稚園が誕生している。

尚特筆したいことは、昭和三年四月に岩手県女子師範学校に附属幼稚園が、久保川平三郎女師校長、栗田五百拔岩手県学務部長等の尽力によつて開設されたことである。年長組と年少組各三十名計六十名を定員として同年四月十日保育を開始している。以来同園が岩手県幼児教育の推進と啓蒙につくした力は、その毎年の教育実習生の指導と共に大きいものがある。

殊に昭和九年四月に、同女師校長として藤見陸治氏が補せられるに至り、岩手県の女子教育と共にその幼児教育は、氏のざん新な考と熱心によつてその気運は飛躍的に上昇した。恰も昭和八年の津浪、同九年の凶作、銀行パニック等相つゞ天災不幸のため、県民の疲弊はその極に達した時であつたため、それに伴う欠食児童、乳幼児の死亡、母親の労働等の切実なる問題を契機として幼児教育の振興には、一層のはくしやがかけられた。

藤見氏は附属幼稚園の改善に力をいたす一方当時の知事石黒英彦氏に力をあわせて、昭和十年四月には、岩手県女子師範学校の学中に幼稚園保母養成の目的を以て高等女学校卒業生の入学する修業年限一カ年の講習科を設置して、保母免許状と尋常科正教員免許状を与えた。その教育内容と方法も独特のものであつた。例えば一週の間は、教科学習と教育実習と見学と三者がふくまれていて、その三者が繰返えされてゆくの、人呼んでサンドウィッチ・システムと云つた。この講習科は、昭和十六年までつづいたが、氏の転任と戦争体制の進行とともに影をばつたのは遺憾である。

この間、これ等の卒業生は、幼稚園と云うよりも、保育所、殊に小学校に設置された農山漁村の多くの季節保育所を通して幼児教育の進展に大きな影響を与えた。自転車にポータブルをつんで移動幼稚園を試みたものもある。これ等の経験は今日、小学校のプレブライマリー教育に生きている。

又藤見氏は、県の社会教育課の協力を得て幼稚園と保育所を一体として、岩手県保育会を結成し、女師附属幼稚園にその事務所を置き、保育所と幼稚園の振興に力をつくした。

その会のモットーとして(1)幼稚園、保育所の拡充、(2)家庭教育の改善と母性のよう護(3)家庭に於ける物質生産の拡充に協力。の三つであった。これは其の後、保育会報を毎年発行し、研究発表会をもち非常なる発展を見たが、戦争の次第にか烈を加えるに至って、県よりの補助等もなく、一時は、岩手県教育会の中に吸収されようとしたが、それにも至らず、命脈を保って終戦を迎えた。

新教育と共に岩手県保育会は活潑な活動をつづけたが、保育所と幼稚園との関係問題で非常な困難をした。然し学校教育法等が出て色々の論議をかさねて、幼稚園と保育所との間に一線がかくされるに及び、保育所と一応別れて、昭和二十五年岩手県幼児教育連盟と改称し、主として幼稚園のみの集として、今日に及んでいる。戦後の出発当時は、加入幼稚園の数は全部で十三と云うさびしいものであった。少数会員と、わずかな会費での会の運営は非常な困難を極めた。それにも関らず、会員一同のかたい結合と協力とによって、日を追って盛んとなった。今日は加入幼稚園四十一となり、その運営も軌道に乗り、総会、例会、研究発表会、研究集会等活潑に行われている。全く、かく世の観があら

る。

尚特に記したいことは、昭和十二年九月、当時の女子師範学校教諭であった上羽長衛氏及同附属幼稚園保母山田タツ氏等によって、岩手県保育発達史が同校郷土室より発行されていることである。

## 五 昭和時代(後期)

戦前二十二あった幼稚園は、戦後は経営の困難から一四をかぞえるのみであった。幼稚園が学校として学校教育法に規定されても、一向に進展せず昭和二十三年に二園が開設されたのみである。

サンフランシスコ講和会議後、日本の独立、幼児数の増加、経済事情の緩和等により、ようやく幼稚園に対する関心が高まり、その後は、非常な勢で幼稚園が開設されていった。昭和二十七年には私立三園、二十八年には私立四園、公立二園、二十九年には私立八園、公立二園、三十年私立五園、公立二園、三十一年には私立四園と云った如くに、この間は一カ月半毎に一つの幼稚園が生れてきたことになる。

この時期の特色としては、第一に公立幼稚園が増加したことである。昭和二十七年まで

は、公立は、一つであったものが、今日では七園を数えている。しかもそれが都市でなく、若柳とか佐倉河とかの農村地帯に多く開設されることである。次はスクールバスをもって幼児を集めて廻る幼稚園の出来たことである。岩手県に於ては、幼稚園といわず、小、中学校教育にも、こうした計画がなされて、分教室の不完全な教育や交通の危険から救われることが望まれる。第三は、私立幼稚園が公立幼稚園に、通年保育所が、幼稚園に切りかえられる傾向である。これ等は幼児教育が公のものとして、又幼児教育の意義が認められて来たものと云える。

就学前の教育は我が国教育の大きな今日の問題点であると同様、民度の低い東北地方の開発に於いても、幼児教育の急速な発展は重要な問題点であろう。

参考書 乙竹岩造著 日本庶民教育史

上羽長衛編 岩手県保育発達史

せ  
ら  
知  
お  
第四回全国仏教保育大会は、五月二六、七、八日の三日間、京都西本願寺と京都女子大学にて行われる